

日本大学の沿革及び概観

日本大学は、明治22年（1889年）10月4日、時の司法大臣・山田顕義伯爵（吉田松陰の門下）と宮崎道三郎、穂積八束、金子堅太郎らの11名の学者が日本の法律を教育する法学校の設立を企図し、設立者総代を宮崎道三郎として東京府に申請、創立した日本法律学校が前身です。

当時、教育の面では英、独、仏系“万能の世”。とくに法律学校はすべて英、独、仏系に属していました。これに対し本学の学祖・山田顕義らは、こうした情勢を深く憂え「海外の法理を摂取するとともに日本人の主体性を確立した日本法学の振興を図り、国運の発展を図りたい」と決意、当時の第一級の法学者を集め、日本法律学校を開校しました。初代校長にはハーバード大学ロースクールに学んだ新進気鋭の法律家である金子堅太郎が就任しました。

明治36年4月に専門学校令が公布されたのをうけて本学は同年8月に組織を改め日本大学と改称、同37年3月、専門学校令による大学となりました。大正9年4月には大学令による大学に昇格、昭和24年4月に新制大学へと移行しました。

本学初代学長には2代校長の松岡康毅が就任し、松岡はさらに大正11年に総長に就任、30有余年にわたり日本大学の発展に尽力しました。ついで平沼騏一郎、山岡萬之助、呉文炳、永田菊四郎、鈴木勝、高梨公之、木下茂徳、瀬在良男、瀬在幸安、小嶋勝衛、酒井健夫を経て、平成23年9月大塚吉兵衛が第13代総長（平成25年4月1日から「総長」が「学長」となる）に就任して現在に至っています。教育の方針は、中道を歩んで極端に走らず、穏健着実をモットーとし、創立以来独自の学風を築きあげました。

この間、創立100周年を期し、平成元年10月には天皇、皇后両陛下ご臨席のもと盛大に記念式典を挙行しました。さらに同記念事業の一環として平成6年10月、時代の要請に応えうる各種情報の受信・発信基地として、埼玉県所沢市に「総合学術情報センター」を開設し、今年本学は創立129年を迎えます。

また、アイゼンハワー米国大統領に対する名誉学位贈呈式が昭和35年10月、代理のマッカーサー駐日米国大使を迎えて行われたのをはじめ、昭和37年2月にはケネディ米国司法長官に対し、来日を機に名誉学位が贈呈されました。さらに、昭和38年5月には米国初の宇宙周回飛行をした宇宙飛行士、グレン2世海兵隊中佐（元米国上院議員：平成10年スペースシャトル「ディスカバリー」に搭乗、史上最高齢で再び宇宙飛行を達成）に対する名誉学位贈呈式が行われました。平成11年10月には、日本大学における女性初の名誉学位が国際連合人口基金のナフィス・サディク事務局長に贈呈されました。平成14年5月には、クリントン前米国大統領、平成15年11月には、ゴルバチョフ元ソ連大統領、このほか、ライシャワー駐日米国大使、パキスタン大統領、その他各国の学者・政治家など現在まで52名に名誉学位を贈呈するなど、国際親善と文化の交流に尽くしています。

現在、大学院20研究科、第一部・16学部87学科、第二部・1学部1学科、短期大学部5学科、通信教育部4学部、さらに各研究所、付属高校等多数を擁するわが国最大の総合大学です。校舎は延べ170万平方メートル、校有地3,130万平方メートル、教職員の数は平成29年5月1日現在7,233人、学生・生徒数平成29年5月1日現在96,103人、卒業生の総数は約115万人です。平成31年（2019年）には創立130周年を迎えます。